



# もみじ葉



高西HP QRコード



## わたしたちがきらきら輝く運動会になりました！

たくさんの声援・拍手を、ありがとうございました。

たくさんの方の声援と拍手に包まれ、令和五年度の運動会を無事開催することができました。ここ数年、コロナ禍ということで、来場される方の制限をかけるを得ない状況でしたが、今年度は来場者の人数制限を設けないことで、子どもたちにとっては、自分たちの姿を見てもらえるうれしい運動会になりました。

ご参観いただきました保護者の皆さんをはじめ、地域の皆様には高西っ子の元気で、全力を出して頑張ろうとする姿をご覧いただけたのではないかと思います。

五・六年生のソーラン節では、その力強い動きにたくましい力強さと高学年としての自覚が表現されていました。

三・四年生ののこは、素早い手の動きや隊形移動をしつかり覚え、しかもみんなでそろえて踊るところに、中学年としての成長を感じました。

一・二年生のダンスは、とてもかっこにも元気がいっぱい姿を表現しました。また、決めポーズがたくさんあってそれを覚えて踊りました。特に、一年生は入学してわずか二か月なのですが、運動会の練習を通して、しつかり小学生へと成長しました。

「成長は、限界の一步先にある」という言葉を聞いたことがあります。高西っ子が全力を出し、一生懸命に運動会へ取り組んだからこそその成長があつたのだと思います。

改めて、運動会に向けて励ましたり、当日の大きな声での声援や大きな拍手をいただいたりしたことに、感謝申し上げます。

子どもたちが望んでいること、それは自分を見てもらうことです。ですから、今年はいくつの方々に見ていただくことができ、本当に良かったと思う運動会になりました。これから本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## ★百年杉★ たかにしコラム

先に書きましたが、一年生が運動会を通して、ずいぶん小学生らしくなりました。もちろん、入学すればだれでも小学生なのですが、最初から小学生ではなく、小学生になっていくのだと思います。それは「できる」ことが増えていくからです。また、「すべきこと」を判断して行動できるようになるからです。

しかし、これには個人差があります。特に、小さい頃の個人差はとて大きいです。それぞれに成長の時期やスピードが違うんですね。同じ親から産まれたきょうだいでもずいぶん違います。きつと、保護者の皆さんもご承知のことだと思います。

さて、その個人差の大きい成長はどのように、どのタイミングでいくのか。それは、保護者や周りの人の関わり方が大切ですね。そのときに気を付けたい「5つの過」をご存知ですか。①「過保護」②「過干渉」③「過期待」④「過放任」⑤「過許可」です。①の「過保護」はよく聞く言葉だと思いませんか。これまで子育てをしてきて、私自身が一番気を付けてなければならぬと考えるのが、②の「過干渉」です。過干渉とは、子どもに関わりすぎるといえることです。子どもも大人と同じように悩みをもちます。悩みがあることをネガティブに考えてしまいがちですが、悩みがあるからこそ、自分なりに一生懸命考えることで強くなります。もし、親が関わりすぎると、子どもはそのような悩みを通して強くなる機会を失ってしまうこととなります。そしていつか自立の時を迎えたときに、これから出会う様々な困難に立ち向かう力をもつことなく、社会に放り出されることになるのです。

もちろん、子育てをする上で、子どもを保護したり、干渉したり、期待したり、放任したり、許可したりすることは大切です。しかし、それが過ぎると…

子育ては難しいですね。その子にあった正解はすぐに見つかりません。暗闇を手探りで進むようなものです。私もたくさん失敗してきましたし、今も失敗しています。

学校の教育活動でも、学年に応じて、その子に応じて、乗り越えてほしい課題を与え、支えています。保護者の皆さんも、子供の成長を思い、少しずつ、手を離し、見守っていくことを増やしていきたいませんか。相談事は学校もお聞きします。お待ちしております。